

日本学術会議地球惑星科学委員会・IUGG 分科会

IAMAS 小委員会

(第24期・第4回) 議事録

1. 日時：2019年10月28日(月) 12:00-13:30
2. 会場：福岡国際会議場 506号室
3. 出席者：中村尚[委員長]、浮田甚郎[幹事；議事録]、塩谷雅人、高薮縁、佐藤薫、江守正多(ウェブ参加)(計6名)

欠席：三好建正[幹事]、中島映至、近藤豊、松本淳、鬼頭昭雄各委員

4. 配布資料

資料1 IAMAS 小委員会 24期第3回議事録

資料2 IAMAS・IUGG 最新動向

5. 議事

[1] 第24期第3回会合の議事録(資料1)を確認した。

[2] 最新の国内外情勢に関する情報交換

中村委員長から資料2を用いて

i) 2019年7月8日~19日にカナダモントリオールで開催された IUGG General Assembly の概要説明があり、参加登録が56カ国から3991名(内学生832名)あり、全体の発表件数(約5600件)のうち IAMAS 発表数が全体の約20%あったこと、24件の IAMAS シンポジウム、9件の IAMAS 主導ジョイントシンポジウムを開催したこと、環境に対するオゾンとオゾン破壊物質の役割についての決議が採択されたこと、今期(2019-2023年)の IUGG の体制などが確認された。

ii) 次回の IAMAS-IACS-IAPSO 合同総会が BACO-2021 として 2021年7月18~23日に韓国釜山で開催されること、2023年の次々回 IUGG 総会はドイツベルリンで開催されることなどが確認された。

### [3] その他

その後は日本気象学会学術委員会と合同で、航空機観測、地球衛星観測、GEWEX、データ利用、放射能汚染に関する対策に関してそれぞれ情報交換、討議を行った。

「航空機観測による気候・地球システム科学研究の推進」を日本学術会議マスタープラン 2020 に日本気象学会、日本大気化学会、日本航空宇宙学会と共同提案したことを受けて地球惑星科学委員会でのヒアリングが 2019 年 5 月 27 日にあり重点計画ヒアリングに進んだ事が報告された。地球惑星科学連合 2019 年総会（2019 年 5 月 28）において航空機観測セッションを日本気象学会の後援で開催し、来年度も同様なセッションを開催予定であることが報告された。

第 23 期に日本学術会議から発出された提言「我が国の地球衛星観測のあり方について」のフォローアップと、有効で持続可能な地球観測衛星の将来構想の提示を行う目的で、地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会のもとに地球観測将来構想小委員会が 2019 年 6 月に設置され、2019 年 8 月 19 日に第一回会合、2019 年 10 月 7 日に第二回会合が開催され、第 24 期の目標成果物としての提言の提出に向けたスケジュールの確認と記載内容についての議論があったことが報告された。

GEWEX 小委員会から、ポスト MAHASRI プロジェクトの The AsiaPEX プロジェクトが GEWEX の Regional Hydroclimate Project として立ち上がったこと、2018 年夏の西日本豪雨に関して日本の気象研究分野が共同して研究にあたっていること、2017-2018 年の極端現象に関する論文が SOLA 及び気象集誌にまとめられていることなどが報告された。

日本気象学会の中に設置されたデータ部会において、気象庁データのオープン化、データの品質保証を含む DOI 化問題、ビッグデータのデータアーカイブについて気象庁と研究者コミュニティが連携して議論されていることが報告された。

日本気象学会の中に設置された放射能汚染に関する対策部会において、放射能汚染に関する対策、特に原子力防災についての数値モデルの比較やガイドラインについての気象研究ノートが目次案が提出され、現在内容と執筆スケジュールの確認作業が進められていること、日本気象学会の中に設置された「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質拡散に関する作業部会」が取りまとめた「緊急時における数値モデルの活用策」を発展さ

せた内容が出版されたことなどが報告された。